

～森の民話茶屋運営委員会～

森林の民話茶屋

福島県地域づくりサポート事業 『ふるさと応援活動』によるふるさとの

福島県地域づくりサポート事業
『ふるさとの会話』によるサポートの



“出逢い”語り部のお客さま（梁川町の引地さん）がう楽しい話を。



~5月20日~9月20日毎月1回発行~

発行責任者／森の民話茶屋店主 後藤みづほ

福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳国有林7林班 Tel.090-3121-4481

吉主が走る！村ウオウ子 Vol.6

私たちの大玉村には、かつて何軒もの豆腐屋さんがあり、農家でも自家製の豆腐を毎日のよう、或いは来客の折には必ず作っていたと聞きました。それだけ豆を大事に生産し、おいしく食する文化があつたのでしよう。

「森の民話茶屋」でも、今年初めて「手作りあつたか寄せ豆腐」の企画を立て、大好評を頂き、講師の渡辺初治さんにお願いしてアンコール企画も成功させました。茶屋に来るお客様の中には『豆腐を下さい』と嬉しい誤解をして下さっている方もあり、大玉村の豆と水の恵みを改めて考え方直していく頃、私は村のただ一軒の豆腐屋さん「時崎豆腐店」を訪ねました。そこには家族が支え合ってこそその『豆腐づくり』がありました。

病を乗り越えた父を支えて

豆腐店の三代目である助之さんが病に倒れたのは昨年の十一月でした。救急車で運ばれそのまま三ヶ月入院、治療の甲斐があつて退院。一ヶ月の自宅療養を経て、今年三月末から再び元気に豆腐を作つていらつしやいます。その陰には妻のキミさんと二女の千賀子さんの大きな励ましと支えがあり、代々伝承されてきた豆腐や油揚げに対する「こだわり」と「誇り」があることを改めて知りました。

Q / そうですか。今は？

千 / 豆腐や油揚げを配達はじめで、無くしてはならない
という思いを強くしています。特に手揚げの油揚げは
待たれています。

安達郡の中でもほんと人が機械化されて、この辺では
三春の何軒かが手揚げを守っているといった具合です。

Q / 手揚げは大変なんでしょうか？

千 / 私も揚げ方の技術を先ず習っています。無くしてはな
らないとは思ひながら、でも中三の息子を始め三人の
子どもの世話や教育のこと、両親の思いなどを考える
とまだまだ手探りなんですよ。

Q / 豆腐づくりは？

千 / 父は祖父から身体で仕込まれた職人なので、私に口で
は教えられない…と言います。

ニガリ(豆腐を固める成分)は朝起きた時の天候によるし、
マニユアル世代の私は結果が見えないと不安なんですね。
よね。父と母の偉さをつくづく思います。

どこにも負けないおいしい豆腐油揚げを作り続けて
いるのですから。

Q / 私たちはボランティアとして「森の民話茶屋」を運営し
ているのですが、今年は材料費、例えれば米や味噌代だけ
でもお客様から頂くようにならんですよ。

すると、去年より一層提供する料理に責任を持つよう
になりましたもの…。

千 / 商いは厳しい責任ですね。喜びはその後に付いてき
ます。

「美味しいと聞いて郡山から来ました」というお客様
がいたり、本宮のお寿司屋さんも再開をとても喜んで
くれたり…。

Q / ゆっくりでいいし、気持ちが揺れて当然だけど、いつか
千賀子さんが良いタイミングで裏を返し取り出します。
いますね。

千 / はい。(きれいな笑顔でした)

Q / 良かったですね、助之さんが元気になられて。
キ / ほんとにナイ。父ちゃんあつての仕事だからナイ。
Q / お客様も喜んだでしよう？

キ / ほんとにナイ。これ、豆腐づくりは家族中で協力してや
れよ。どうもよろしく。ごめんなさい。

Q / うん。

千 / うん。

二八
三國志

Q / そうですか。今は？

千 / 豆腐や油揚げを配達はじめで、無くしてはならない
という思いを強くしています。特に手揚げの油揚げは
待たれています。

安達郡の中でもほんと人が機械化されて、この辺では
三春の何軒かが手揚げを守っているといった具合です。

Q / 手揚げは大変なんでしょうか？

千 / 私も揚げ方の技術を先ず習っています。無くしてはな
らないとは思ひながら、でも中三の息子を始め三人の
子どもの世話や教育のこと、両親の思いなどを考える
とまだまだ手探りなんですよ。

Q / 豆腐づくりは？

千 / 父は祖父から身体で仕込まれた職人なので、私に口で
は教えられない…と言います。

ニガリ(豆腐を固める成分)は朝起きた時の天候によるし、
マニユアル世代の私は結果が見えないと不安なんですね。
よね。父と母の偉さをつくづく思います。

どこにも負けないおいしい豆腐油揚げを作り続けて
いるのですから。

Q / 私たちはボランティアとして「森の民話茶屋」を運営し
ているのですが、今年は材料費、例えれば米や味噌代だけ
でもお客様から頂くようにならんですよ。

すると、去年より一層提供する料理に責任を持つよう
になりましたもの…。

千 / 商いは厳しい責任ですね。喜びはその後に付いてき
ます。

「美味しいと聞いて郡山から来ました」というお客様
がいたり、本宮のお寿司屋さんも再開をとても喜んで
くれたり…。

Q / ゆっくりでいいし、気持ちが揺れて当然だけど、いつか
千賀子さんが良いタイミングで裏を返し取り出します。
いますね。

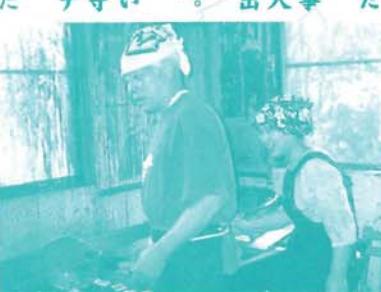
千 / はい。(きれいな笑顔でした)

Q / 良かったですね、助之さんが元気になられて。
キ / ほんとにナイ。父ちゃんあつての仕事だからナイ。
Q / お客様も喜んだでしよう？

キ / ほんとにナイ。これ、豆腐づくりは家族中で協力してや
れよ。どうもよろしく。ごめんなさい。

三人だと三人の仕事が出来る

A hand-drawn style map showing the layout of the forest park area. At the top right is '県民の森 フォレストパーク あだたら' (Citizen's Forest Forest Park Adatara) with a drawing of a campsite. Below it is a building labeled '森の民話茶屋' (Forest Folklore Teahouse). To the right is another building labeled 'アットホーム おおたま'. In the center, a large river or stream flows from the bottom left towards the bottom right. On the left bank of the river, there is a signpost with two circles. The top circle contains the text 'フォレストパークあだたら (県民の森)看板★'. The bottom circle contains the text '直売所'. On the right bank of the river, there is a circular marker with the text '●大玉温泉 金泉閣'. At the bottom right corner of the map, the text '岳温泉' (Yufuin Onsen) is written.



Q / に、良く言われてた
『一人は一人の仕事
しか出来ないが二人
だと三人の仕事が出
来る』って…。

Q / 初めて聞きました。
良い言葉ですね。

キ / みんなに待たれてい
る手揚げの良さも守
つて行きたいもんナ
イ。

Q / 助之さん、良かった
ですね。千賀子さんもいつか豆腐を?
助 / まあナイ。何時になつかわがんねげんども、そ
う言つてくれつからナイ。

Q / ありがとうございました。

千賀子さんの話になつたら、何だか助之さんの
目が潤んだように、そして声も震えているようで、
私は何だか言葉を呑んでしまいました。

「家業」という言葉を余り聞かなくなりました。
でも当たり前のように地に足を着けてしっかりと
厳しい「家業」を守っている家族がここにもいました。
さあ、今夜は「冷奴」と「いなり寿し」を作ろう。



